

「図書館で過ごした時間」

尾鷲市立図書館協議会委員 西岡 実奈美

私にとって、図書館は特別な場所です。それは、図書館が私の学び場であり、遊び場であり、大切な居場所であったからです。

保育園児の頃は、イベントの紙芝居上演を見に連れて行ってもらいました。おもしろい話、こわい話を、声色を変えて読み聞かせる図書館員さんに、子どもながらに「すごい」と思ったのを覚えています。小学生の頃には、読書にはまり、ほとんどの週末を図書館で過ごしました。好きな作者さんの別の本を読めることがとてもうれしく、閉館時間まで過ごすことも多くありました。また、友だちとビデオを見たりして過ごすこともありました。中学生の頃は、図書館の学習室で、テスト勉強や受験勉強をしました。落ち着いて過ごせて、気分転換がすぐにできる図書館は、とてもよい勉強場所でした。高校生の頃、部活が休みの日の放課後は、図書館で過ごしていました。好きな本を読んだり、課題をしたり、ふらふらと歩いて興味がある本を探したり、一人で静かに過ごす時間が大好きでした。大学生の頃は、レポートなどの課題の資料を探しに行きました。特に卒業論文は、読書感想文をテーマにしていたこともあり、参考になる文献を探しては読んでいました。そして、小学校の教師になった今、子どもたちに読んでみてほしい本や、学習に使いたい本を探しに、地域の図書館や学校図書館に行ったりしています。

自分のこれまでの生活の中で、図書館で過ごした時間はとても多く、読書から得たものも、計り知れないほどあると感じます。たくさんの本を読んでいるうちに、さまざまな言葉や表現を知ったり、文章を読むことに慣れていったり、多様な価値観に出会ったりすることができました。

子どもたちには、おもしろいと思う本に出会ってほしい、そして読書を好きになってほしい、と強く願っています。そして自分も、もっとたくさん本に出会い、読書を楽しむ生活を送りたいと思います。



蔵書点検のお知らせ

☆期間 2023年1月30日(月)～2月6日(月)

上記の期間中、蔵書点検作業を実施します。蔵書点検とは、全ての蔵書の在庫点検のことで、蔵書の現状や紛失資料の有無、配架誤りなどを1冊1冊確認します。この蔵書点検を行うことにより、資料が正しい場所に配架され、利便性が高まります。

期間中は休館となるため図書館の利用ができません。

ご不便をおかけしますがご協力お願いいたします。

また、返却の遅れている本がありましたら、

お早めに図書館までお持ちください。



2023 1 January						
月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

おはなし会の予定

★おはなしだっこ【赤ちゃん対象】

第1木曜 1歳児以上 10:00～
0歳児 10:45～

★おはなしのひろば【幼児対象】

毎週土曜日 11:00～11:30
(ただし第5週はお休みです)

2023 2 February						
月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	2/2	2/4	おはなしだっこ おはなしのひろば		

はお休みです

2023 3 March						
月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

尾鷲市立図書館 (〒519-3616 三重県尾鷲市中村町 10-41)

開館時間 火～金 9:30～19:00 / 土日祝 9:30～17:00

休館日 月曜日・月末

※月曜日が祝日の場合は翌日休館

年末年始・蔵書点検期間

月末が土日の場合は直前の金曜日休館

電話番号 0597-23-8282 FAX 0597-23-8283

図書館 HP <https://ilisod003.apsel.jp/owase-library/>

図書館だより 2023年冬号

つみくさ



新春

紅白本!

本の表紙に惹かれて、思わず手に取ったことはありませんか？ 今回のつみくさでは、めでたい紅白の装丁で彩られた「紅白本」を特集します。どちらの色の本も、時代小説やミステリー、サスペンスなど様々なジャンルの本を集めました。“ピン!”ときた本があれば、今年の読書初めにいかがでしょうか。今年もみなさんに素敵な本との出会いがありますように…。

一作品で紅白本



『国宝 上・下』吉田 修一／著 (朝日新聞出版)

1964年長崎の老舗料亭で、この国の宝となる役者は生まれた。男の名は立花喜久雄。任侠の一門に生まれながらも、この世ならざる美貌は人々を巻き込み、喜久雄の人生を思わぬ域にまで連れ出し…。日本の成長とともに、技をみがき、道を究めようともがく男たち。血族との深い絆と軋み、スキャンダルと栄光、幾重もの信頼と裏切り。舞台、映画、テレビと芸能界の転換期を駆け抜け、数多の歓喜と絶望を享受しながら、その頂点に登りつめた先に、何が見えるのか？

『釈迦』瀬戸内 寂聴／著 (新潮社刊)

この世は美しい。人の命は甘美なものだ…。釈迦入滅にいたる最後の旅は80歳の時。老いた肉体を嘆きながら、釈迦は何を考え、どんな言葉を残したか…。親しみやすい人間としての釈迦をとらえた寂聴版ブッダの物語。



《目次》

- ・新春紅白本!
- ・図書館利用者さんの「これ読んでみいー!」
- ・図書館エッセイ…西岡実奈美さん

- ・紅白本
- ・ねえねえ知ってる? 装丁
- ・寿文庫の受付が始まりました
- ・2022 貸出ランキング
- ・蔵書点検のお知らせ/カレンダー



『あやし 一怪一』
宮部 みゆき//著 (KADOKAWA)

どうしたんだよ、震えてるじゃねえか。悪い夢でも見たのかい…。月夜の晩の、江戸にまつわる本当に恐い恐い怪談の数々を描いた江戸ふしぎ噺。その話がどういふふうになるのか、ちゃんと聞いたのか?

時は江戸、町で起こる怪物語を集めた、背筋も凍る一冊。恐ろしい、怖いといった言葉では言い表せない独特の世界観と、予測不能な驚きの展開があなたを待っています。さあ、不思議で楽しい宮部ワールドに迷い込んでみませんか?

藤井春奈さん (10代・女性)



『目の見えない白鳥さんとアートを見に行く』
川内 有緒//著 (集英社インターナショナル)

アートの意味、生きること、障害を持つこと。全盲の白鳥さんと会話しながらアートを見ると、全く別の世界が見えてきて…。社会を、自分自身を見つめ直す1冊です。

アート鑑賞、私は大好きなのですが、ちょっと苦手でもあります。頭の中が「？」でいっぱいになる作品がたくさんあるから。でもこの本の中で目の見えない白鳥さんと一緒に作品を見ていると、今まで気づかなかったものが見えてきます。わからないものに向き合うこと、感じたことを言葉にすることの大切さをこの本から教えてもらいました。

もへじさん (30代・女性)



『空にピース』 藤岡 陽子//著 (幻冬舎)

公立小学校教諭のひかりは、都内の赴任先で衝撃を受ける。立ち歩き、暴力、通じない日本語…。持ち前の前向きな性格と行動力で、ひとりひとりの児童に向き合おうとするが…。

本を選ぶ時には、表紙の絵で選ぶことが多い私。爽やかな楽しそうな表紙からは想像もできない、ちょっと考えさせられる一冊でした。心を閉ざす子どもたちが、担任の先生との関わりを通して成長していくなかで、どの子にも明るい未来が来るといいたいと思いつつ読み進めました。

Yさん(40代・女性)

紹介している本はすべて図書館所蔵本ですので、貸出、予約ができます。



『風よあらしよ』
村山 由佳//著 (集英社)

服従するな。立ち上がれ。明治・大正を駆け抜けた、アナキストで婦人解放運動家の伊藤野枝。生涯で三人の男と〈結婚〉、七人の子を産み、関東大震災後に憲兵隊の甘粕正彦らの手により虐殺される…。その短くも鮮烈な生涯を描く。



『解』
堂場 瞬一//著 (集英社)

平成元年に社会へ船出した大江と鷹西は、学生時代の夢を叶え、政治家と小説家に。だが、二人の間には忌まわしい殺人事件の記憶が埋もれていた…。平成という時代を徹底照射するミステリー。

現在この単行本は流通していません。



『ホイッスル』
藤岡 陽子//著 (光文社)

平穏に暮らしていたはずの両親。その父が突然なくなった。思い出の詰まった実家も売却されていた。何一つ身に覚えのない母は、なぜと叫びながらも、答えを手繰り寄せていく…。不倫・離婚・裁判を経た、家族の再生の物語。



『緋の河』
桜木 紫乃//著 (新潮社刊)

男として生まれた。でも…あのおねえさんみたいなきれいな女の人になりたいな。蔑みの視線も、親も先生も、誰に何を言われても関係ない。己の信じる道を進んだカラーセル麻紀の波瀾万丈の人生を、事実を元に描きます。



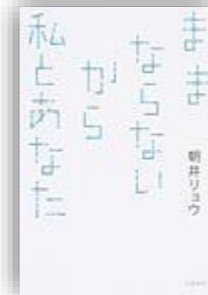
『総理の夫』
原田 マハ//著(実業之日本社)

日本初の女性総理・相馬凜子が誕生し、鳥類研究家の夫・日中は妻を支える決意をするが、政界という未知の世界に巻き込まれていく…。国民目線の政策には、政財界のおじさん連中からやっかみの嵐。果たして凜子の理想は実現するのか…。



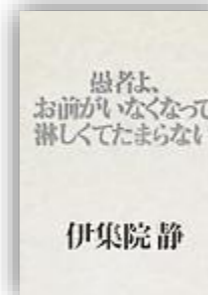
『蘭』
青山 七恵//著 (新潮社刊)

美容師として念願の自分の店をもち、専業主夫の夫に支えられ、しあわせな結婚生活を送っていたはずなのに…。気づくと愛する夫を傷つけている舞。白いマンションのなかで渦巻く孤独と、次第にもつれる男女の愛と渇き。怒濤の展開に、息をもつかせぬ作品。



『ままならないから私とあなた』
朝井 リョウ//著 (文芸春秋)

成長するに従い、無駄なことを切り捨ててく。無駄なものこそ、人のあたたかみが宿ると考える雪子。幼いときから仲良しだった二人の価値観は、決定的に対立する瞬間が訪れる。正しいと思われていることは、本当に正しいのか…。



『愚者よ、お前がいなくなって淋しくてたまらない』
伊集院 静//著 (集英社)

最愛の妻を亡くし、酒とギャンブルに溺れていたユウジ。生きるのに不器用な「愚者」たちとの出会いと別れがもたらすものとは…。男たちの切ない絆を描く「再生」の物語。



『ほどなく、お別れです』
長月 天音//著 (小学館)

大学生の美空がアルバイトをする葬儀場には、訳ありの葬儀ばかり担当するスタッフがいた。あるとき、美空は葬儀を手伝うよう言われ…。旅立つ人の悲しみと、残された人の気持ちに寄りそう心あたたまるお話です。



『幻年時代』
坂口 恭平//著 (幻冬舎)

幼き記憶に潜れ。誰もが生きる天才なのだ! 4歳の春、初めて幼稚園に向かう400mの道のりは、自由を獲得するための冒険の始まりだった。誰もが感じる幼少期の戸惑いと違和感を描きながら、忘れていた自分の眠っている力を思い出させてくれる作品。

本の顔ともいえるのが、装丁(そうてい)です。本来装丁とは本を綴じて表紙などをつける作業のことですが、表紙や帯など“本の外側のデザイン”のことを総じて指します。どの本の装丁も、作者のこだわりが感じられ、じっくり眺めるとまた違う何かが見えてくるかもしれません。実は… 新着図書コーナーのこちらの本は三重県出身の丹地陽子さんが装丁を

担当されていますよ。
川瀬 七緒//著 講談社
『クローゼットファイル 仕立屋探偵 桐ヶ谷京介』



寿文庫の受付が始まりました

1月5日から毎年恒例の「寿文庫」活動が始まりました。今年も皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

期間：2023年1月5日(木)～3月12日(日)

上記の期間中、図書館窓口で受付しています。初午(2月5日)のころには、尾鷲神社をはじめ、市内のお寺にも協力箱を設置しています。詳しくは図書館にお問い合わせ下さい。

2022貸出ランキング

2022年1月～12月です

小説

- 1位 『透明な螺旋』 東野 圭吾//著 (文芸春秋)
- 2位 『探花』 今野 敏//著 (新潮社)
- 〃 『無明』 今野 敏//著 (幻冬舎)

実用書

- 1位 『70歳が老化の分かれ道』 和田 秀樹//著 (詩想社)
- 2位 『キッチンから始める人生の整理術』 村上 祥子//著 (青春出版社)
- 3位 『素敵に暮らす大人のお金のコツ』 主婦の友社//編 (主婦の友社)

児童

- 1位 『パンどろぼう』 柴田 ケイコ//作 (KADOKAWA)
- 2位 『まめうしくんとABC』 あきやま ただし//作 絵 (PHP 研究所)
- 〃 『ポケモンサン&ムーン ぜんこく全キャラ大図鑑』 (小学館)